

未来につながれ！わかばのポケット



～夢があふれるこども園～

【1年次 研究報告】



研究テーマ

未来につなぐ！わかばのポケット

～夢があふれるこども園～

八尾市立東山本わかばこども園

所在地：八尾市東町3丁目5番地

電話：072-996-3301

園長：久保 艶子

◆クラス編成◆

〈乳児クラス〉

0歳児	1歳児		2歳児		合計
ひよこ組	うさぎ組	りす組	きりん組	ぞう組	
9名	12名	12名	15名	15名	63名

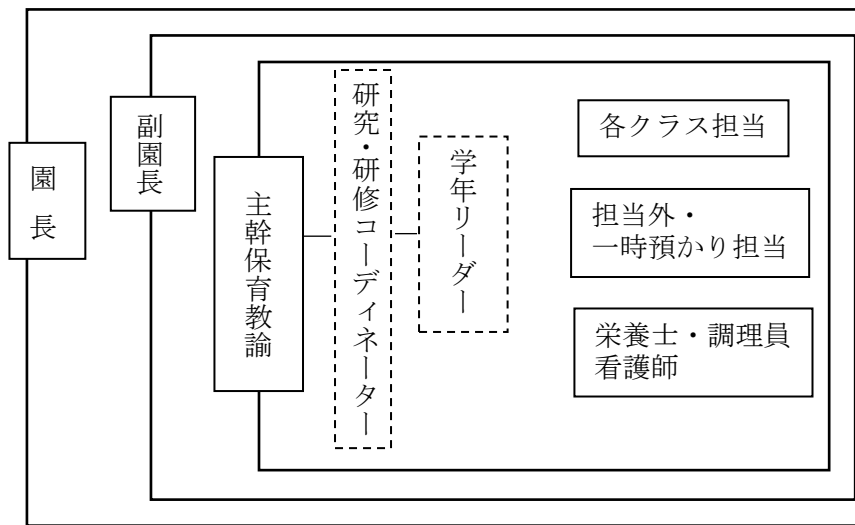
〈幼児クラス〉

3歳児			4歳児		5歳児		合計
いちご組	りんご組	もも組	すみれ組	ひまわり組	そら組	ほし組	
18名	18名	18名	27名	27名	30名	30名	168名

合計： 231名

◆研究組織◆

【研究推進組織】



- 教育・保育の研究
- 園内保育研究会
- 園内保育指導案検討会議
- 公開保育研究会
- 新規採用研修会
- 特別支援教育研修会
- カリキュラム会議
- 学習会など

1. 研究テーマについて

(1) 園の実態とそこから見える課題

令和元年・2年の研究では自然環境の充実や園舎、時間の使い方の工夫など保育が豊かになるための取り組みを進め、「わかば6年間の育ち」の作成など、「今、大切にしたいこと」を全職員で確かめ合った。教育目標を具現化するポートフォリオを製作し保護者との共有にも取り組んできている。園の組織が大きいと、学年、クラスでの実践や予定などの情報共有が難しい。それに加え、コロナ禍でできるだけ距離をとり、学年やクラスで別々に分けて保育を行うというスタイルが、「互いの遊び」「保育の進め方」を見えにくくしている。打ち合わせ、会議、学習会、グループワークなど互いの保育について、疑問や感じたことを問いかけ合う同僚性を形成していくことの大切さを感じている。

引き続き、環境構成の見直しやこれまで環境とし生かしていない場を遊びに取り入れ、発達に応じた環境づくりや一人ひとりに必要な援助ができていないかなどについて考え合う。また、保育の計画、振り返り、次への手立てを考えることや自分の考えを言語化すること視覚化することなど、それぞれの自己課題に向かって取り組んでいきたい。

(2) 研究に向けての考え方

第1回目の学習会では、異動してきた保育者と一緒に「めざすこども園」像について考えを出し合った。こども園ではどんなことを実践したらよいか話し合う中で、「家ではできない経験をいっぱいさせたい」「“やってみよう”が見つけれられるこども園」「地域・保護者とのつながりを大切にすることも園」「保育者の役割が重要」という思いが見えてきた。

令和元年から研究を積み重ねてきたことで、保育者同士が対話する関係が築かれてきている。また、学年同士のつながりを深め連携を大切に、必要なことや学年としての生活や遊びを丁寧に実践していきたいという思いが出てきた。めざす子ども像に向かって子どもたちにどんな力を育てたいのか、それを支える保育者にどんな資質・能力が必要なのかということの研究することとし、その力や必要な能力を蓄えていく様子をポケットに詰め込むというイメージで研究のテーマを設定した。

「未来につながれ！わかばのポケット ～夢があふれるこども園～」

サブテーマの夢という言葉は、一般的には将来になりたいという言葉で用いられることがあるが、本園では、「子ども一人ひとりが実現していきたいこと」＝「やってみたいこと」と定義する。「やってみたいこと」は、子どもが主体的に心を動かしていくこと＝好きな遊びであると考え。子どもの「やってみたいこと」にあふれている豊かな環境を通して子どもに必要な経験知が広がり、資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」につながっていることを確かめ合う研究にしていきたい。



2. 研究方法

保育について語り合い、対話していく中でよりよい保育の方法を模索し実践する。

(1) 園内保育研究会

学年ごとに深めていきたいテーマに向かい保育を実践する。観察シートには、討議の柱に沿った姿を読み取りながら、その姿を支える保育環境や保育者の援助について記入し討議をすすめていく。保育実践後は、討議によって共有した大切にしたいことを日々の実践へ生かす。

(2) 保育指導案検討会議・主幹保育教諭との保育カンファレンス

指導案を立てる過程が、「自分の保育を振り返る」時間となっている。担当主幹保育教諭と対話しながら指導案にその日のねらいや育てたいこと自分の保育観を落とし込み、当日の保育実践へ結びつけていく。

(3) フォトチャット事例研究会

写真から子どものトキメキとヒラメキ・イメージを感じることで子ども理解を進めていくことを実践する。討議の中で、保育環境がもたらす意味や子ども理解の読み取りの深さや保育者の感性を豊かにしていくことを大切にする。

(4) 学習会

・全体学習会

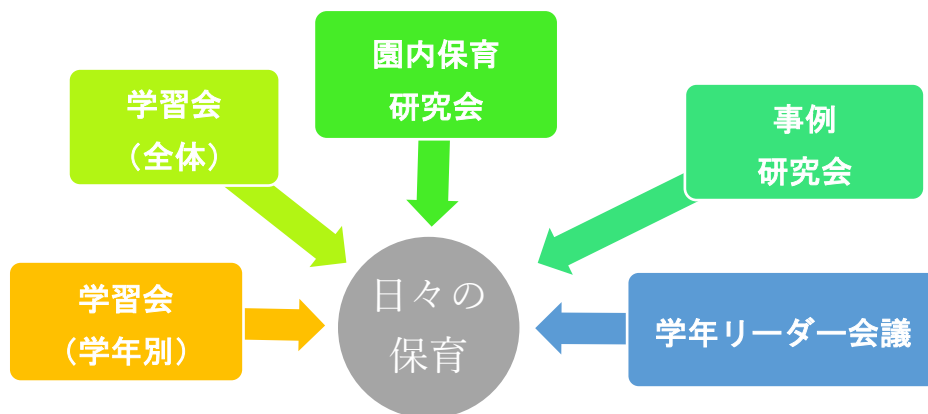
テーマについての思いを出し合い、園内保育研究会で得た学びを全職員で共有し各クラスでの実践に反映させることを中心に取り組む。

・学年別学習会

学年で子どもたちの姿を見取り、興味や関心、課題などを明確にしていくことで、「どのような育ちや学び」が必要なのかを話し合う。また、子どもたちに必要な援助をしていくために保育者にとってどのような資質・能力を高めていくことが求められているのかという視点で学年ごとに学びたいことを考え合う機会として今年度より新たに取り組む。

(5) 学年リーダー会議

学年での実践や学びの成果などを報告し、互いに刺激し合いながら保育を展開していくための場とする。



基本理念

- 子どもの健やかな成長と発達の連続性を保障し、生きる力の基礎を培う。
- 子どもが保護者や地域に見守られ、かかわりを持ちながらともに育つ力を育む。

東山本わかばこども園のグランドデザイン

(0歳児)

- 一人ひとりの生活リズムを大事にしながらか生理的欲求(食事、排泄、睡眠など)を満たし、安全で清潔な環境の中で健康に過ごす。
- 保育者との安定した関係の中で甘えや欲求を十分に受けとめ、信頼関係を築きながら、情緒の安定を図る。

【学年のテーマ】

一人ひとりの育ちを大切に～笑顔あふれる環境づくり～

(1歳児)

- 保育者に見守られながら過ごす中で、安心して自分の気持ちを表す。
- 信頼できる保育者のもとで、安定した生活リズムで過ごし、身の回りのことなどを自分でしようとする気持ちをもつ。
- 安全な環境の中で、全身を使ったあそびや探索活動を楽しみ、周囲や友だちへの興味関心を広げる。

【学年のテーマ】

楽しい うれしい 大好きがいっぱい～安心できる環境づくり～

(2歳児)

- 保育者に手伝ってもらいながら、身の回りのことを自分でしようとする。
- 友だちに関心をもち、自分の思いや要求を言葉で伝えられるようになり、一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 見立て、つもり遊びを楽しみイメージをふくらませていく。
- 保育者との安定した関係の中で、園生活を楽しむ。

【学年のテーマ】

好きな遊びみつけた!!～やってみよう!失敗は成功のもと!～

子育て支援

- 子育て相談
- 一時預かり
- 園庭開放
- わかばひろば

家庭との連携

- ポートフォリオを作成し、日ごろの取り組みを発信
- 日常の会話、クラスだよりで、こどもの様子や育ちを伝える
- 子育ての悩みなど情報の共有

地域社会とのつながり

小・中学校との連携

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
～小学校との滑らかな接続をめざして～

「主体的・対話的で深い学び」の実現

教育・保育を通して育みたい資質・能力の3つの柱

- 知識・技能(何を理解しているか、何ができるようになるのか)
- 思考力・判断力・表現力など(理解していること・できることをどう使うか)
- 学びに向かう力、人間性など(心情・意欲・態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする)

- ☆自己評価 → 取組全体の充実と
- ☆こども園評価 → 保育の質の向上

教育・保育目標

- すべての教育・保育活動の中に、人権尊重の精神を活かし、ともに生き、たくましく心豊かな子どもを育てる。
- 4つの育みたい力【大切にできる力】【元気に生活する力】【つながる力】【考えてチャレンジする力】

園目標(めざす子ども像)

げんきに のびよう わかばっ子
わくわくドキドキチャレンジする心
かんせい豊かで思いやりのある心
バランスのとれた健やかな体

研究テーマ

未来につなぐれ!わかばのポケット
～夢があふれるこども園～

P(plan) D(do) C(check) A(action)
→計画する →実行 →評価する →改善する →

(栄養士・調理員)

- 好きなものをおいしく食べ、食べることへの興味を育む。
- 食することへの感謝の気持ち、家庭への食の情報発信を豊かにする。

(看護師)

- 病気やけがの予防につながる知識や習慣を知らせ、健康な体づくりに役立てる
- 保護者と連携しながら、子どもたちの体調管理に努める



八尾市がめざす保育者像

- 元氣いっぱい!いきいきワクワク楽しむ保育者
- 子どもに寄り添い、子どもを理解する保育者
- 専門職としての向上心を持ち、学び続ける保育者
- 同僚性を発揮して、周りつとつながる保育者



(3歳児)

- 見通しをもちながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
- 友だちとかかわって、いろいろな遊びを楽しむ。
- 全身を使ったいろいろな遊びを経験し、身体を動かす。
- 自分の思いや要求を言葉で伝え、やりとりを楽しむ。

【学年のテーマ】

主体的に遊ぶ子どもを育む～環境を通して～

(4歳児)

- 園生活での約束や決まりを知り、健康に過ごすための基本的な生活習慣を身につける。
- 戸外で全身を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。
- 友だちと遊ぶ中で、自分や相手が思ったことや感じたことを伝え合う楽しさや喜びを味わう。
- 身近な材料や素材、用具を使って自分のイメージに合わせて試したり、工夫したりして表現する。

【学年のテーマ】

ほっこり あったか 仲間づくり
いろいろな感情体験を大切にしながら
一人ひとりを認める温かい集団づくり

(5歳児)

- 自分の力を発揮しながら主体的に遊びや生活を楽しむ。
- 友だちとのつながりを深め相手の思いを理解しながら遊びや生活を進める。
- 活動にめあてをもって取り組み、達成感や充実感を味わう。
- 健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ見通しをもって生活をする。

【学年のテーマ】

大人も子どももドキドキワクワク
夢中になれる環境構成や保育者の援助

3. 研究実績一覧

(1) 園内研究会

日付	学年	学年のテーマ
6/7 (月)	3歳児	主体的に遊ぶ子どもを育む～環境を通して～
9/8 (水)	0歳児	一人ひとりの育ちを大切に～笑顔あふれる環境づくり～
9/8 (水)	1歳児	楽しい うれしい 大好きがいっぱい ～安心できる環境づくり～
11/22 (月)	5歳児	大人も子どももドキドキワクワク♡ 夢中になれる環境構成や保育者の援助
11/22 (月)	4歳児	ほっこり あったか 仲間づくり いろいろな感情体験を大切にしながら 一人ひとりを認める温かい集団づくり
2/9 (水)	2歳児	好きな遊びみーつけた！！ ～やってみよう！失敗は成功のもと！～

(2) 事例研究会

日付	学年	テーマ・討議の視点
5/17 (月)	2歳児	フォトチャットのやり方を考えよう
7/29 (木) (公開)	3歳児	「主体的に遊ぶためには」
10/26 (火) (公開)	1歳児	「やってみたい楽しいを繰り返す環境づくりとは」
11/8 (月)	5歳児	「友だちとのかかわりを広げながら遊び込む 環境構成と保育者の援助とは」
11/30 (火)	0歳児	「一人ひとりの思いを大切にしながら 安心して楽しめる環境づくり」
12/17 (金)	4歳児	「好きな遊びを通して、つながりを広げる 環境構成の工夫と保育者の援助とは」

(3) 園内学習会

日付	内 容
4/27 (火)	こども園で大切にしたいことを出し合おう話し合おう
5/25 (火)	テーマや研究方法の共有・学習会のテーマを考えよう
6/24 (木)	6月7日の園内研究会での学びを共有しよう
8/26 (木)	学年別学習会に取り組もう ポケットに何を入れるの？
9/27 (月)	9月8日の園内研究会での学びから保育環境ポケット冊子づくり
11/25 (木)	11月22日の公開園内研究会での学びを共有しよう (中間発表)
12/22 (水)	学年別学習会の共有 (発表) ポケットの中身は何？
1/25 (火)	1年の研究で分かったこと もっと知りたいことを整理しよう
2/24 (木)	2月9日の園内研究会での学びを共有し、次年度の課題整理

4. 園内研究会について

(1) 保育指導案検討会議

1か月前の検討会議では子どもの姿や興味のもち方も変わり、指導案が作成しづらいとの昨年度の反省から、今年度は担任が検討したい時期に会議をもった。また、主幹保育教諭とのカンファレンスを通じて保育を振り返り当日の保育を立案する。検討会議ではクラスの実態や保育者の願いから、そのための取り組みや、援助、環境をどうしていくかなどを確認する。そして当日の子どもの姿の見取り方を話し合った。

(2) 公開保育・討議

討議の柱をもとに観察シートを作成し、そのシートを活用しながら公開保育と討議に参加してもらった。 ◎…討議の柱

	公開保育で分かったこと、学んだこと	今後取り組みたいこと
0歳児	◎安心して遊べるための保育環境とは 子どもの気持ちに寄り添い気持ちを受けとめ一人ひとりの成長に合った丁寧なかかわりを持ち対応することで子どもたちも安心して過ごせることが分かった。保育者に見守られ安心して過ごすことで遊びが広がっていく。子どもの動きに合わせて遊びのスペースや遊具、玩具を変えていくことの大切さも学んだ。	子どもたちの「見て」「できたよ」の表情をいっぱい受けとめ「やったね」「できたね」と子どもたちに伝えながらその積み重ねを子ども自身の愛着や自信につなげていきたい。
1歳児	◎やってみようとする子どもの姿を支える安心できる保育環境とは 広いスペースで遊ぶことで伸び伸びと身体を動かしたり、好きな遊びにじっくりと取り組んだりする。保育者との信頼関係から保育室が落ち着いて安心して過ごせる場になってきていることが分かった。子どもたちのやりたいことが色々な場所にちりばめられた環境づくりを大切に、子どもを理解する手立てとして、子どもが何にトキメキ、何にヒラメキを感じたのかを見取り保育者は受けとめ共感することの大切さを学んだ。	子どものやってみたい気持ちを大切にしながら素材を準備し、環境を整えていきたい。
2歳児 (学年の園内保育研究)	◎好きな遊びを見つけて楽しむためには 指導案を書くことで、クラスのことを見直したり、一人ひとりに合わせた援助などに気づけたり、公開することで様々な意見をきき、保育を見直すことが大切である。保育者の見守りのもと、様々な素材を用意することで子どもたちの“やってみたい”が増え、好きな遊びを見つけて楽しめるようになってきた。	今後は2クラスを行き来しながら遊ぶ時間をつくって、かかわりがもてるようにしていきたい。

	公開保育で分かったこと、学んだこと	今後取り組みたいこと
3歳児	<p>◎主体的に遊ぶ子どもを育むためには</p> <p>子どもが自分から「あれしたい」と楽しそうに遊ぶのは根底に保育者が見てくれているという安心感があるからその姿であり、主体的に遊ぶためには保育者が一人ひとりの気持ちをくみとったり、イメージが広がるような言葉をかけたりすることが大切ということが分かった。たくさんの遊びのタネがある中で子どものやりたい気持ちや興味に合わせて環境を変えていくことの大切さも学んだ。</p>	<p>子どものやりたいにすぐに対応できるようにスピード感を大切にしていきたい。</p>
4歳児	<p>◎人やものにかかわり楽しむための環境の工夫や保育者の援助とは</p> <p>友だちと好きな遊びを十分に楽しむことでイメージを共有したり、言葉のやり取りをしたりして、遊びが広がり継続して遊べていることが分かった。自分たちで遊びに必要なものやルールを考えて決めていくことの大切さや、子どもたちが「この遊びが好き」と感じられるような環境をつくり出すことの大切さも学んだ。</p>	<p>子どもが自分の思いを言葉にしようとする姿をじっくりと見守り優しく言葉かけをし、子どもたちの興味や関心に合わせて環境を整えていきたい。</p>
5歳児	<p>◎ドキドキワクワク子どもが夢中になって遊ぶ環境構成や保育者の援助とは</p> <p>子ども一人ひとりが何を楽しんでいるのかを捉え、それに合った言葉かけや主体的に好きな遊びに向かえる環境づくりをすることで興味、関心、探求心がもてるようになり、より一層遊びが楽しめることが分かった。その主体性をもって遊ぶことが小学校での学びへとつながっていき、子どもなりの遊び、思い、こだわりを大切にしながら、保育者もこだわりをもっていることが必要だということを学んだ。</p>	<p>子どもの願いを実現させていきながら、好きな遊びを追究できるように環境を整え、援助ができるようにしていきたい。</p>

〈成果と課題〉

- ・指導案を作成するにあたり、日々の保育を見直すことができ、保育のねらいや保育者の思いを再認識する機会となった。
- ・検討会議では、他クラスの担任の思いや子どもへの願いを知る機会となり、職員同士の同僚性も高まって、参加者からの発言が増え意見交換が活発になった。
- ・園内研究会を通して、それぞれの学年の保育の中で大切にしていきたいことを改めて認識することができた。
- ・指導助言を受けて、学年や園全体の課題や取り組んでみたいことが見つけられた。
- ・日々の保育で昼間に話し合いもある中、指導案を作成する時間の使い方の工夫がより一層必要である。
- ・討議の中で感じた課題について具体的な改善の手立てを出し合う機会にする。

5. 事例研究会

1枚の写真から子どもの姿を読み取り、保育者同士が「トキメキ・ヒラメキ・分かったこと」に分類しながら多様な保育観を語り合い、子どもの姿を読み取り、自分の保育に活かしていくという研究方法が過去2年間の取り組みで定着した。

○昨年度の研究の課題

- ① トキメキ・ヒラメキ・分かったことの関係性
- ② 3つに分類した後に深めて、保育に返すことができていなかった
- ③ 援助や環境構成などについて対話をし、保育に生かす
- ④ 討議の柱に沿った話し合いの進め方
- ⑤ 様々な保育者がファシリテーターを経験する機会をつくる

○今年度の流れ

- ・事例研究会の前にお気に入りの写真1枚を貼りだしておき、参加者がそれぞれの読み取りをしてから事例研究会に参加する。
- ・エピソードをきく（5分）
- ・「トキメキ」、「ヒラメキ・イメージ」を付箋に記入しKJ法で討議する。（10分）
- ・ファシリテーターは討議の柱や時間を意識しながら進行する。（20分）
- ・討議を通して分かったことを共有し今後の保育に活かしていく。（10分）

第1回目の事例研究会の振り返り

- ・前もって写真を見ておくことでトキメキを予想することができたがヒラメキはつかみにくく、分析にはいきつかない。
- ・討議の柱に向けて「ねらい」が達成したか「援助」は適切だったかという話し合いまでいかなかった。
- ・子どもの姿から特に乳児のトキメキは出しやすいが、ヒラメキは出しにくく難しい。

2回目以降の事例研究会では、エピソードをきいてから出し合うこととした。

トキメキ：子どもが遊びの中で心をと
ときめかせている様
ヒラメキ：子どもたちが遊びの中で
何かにひらめいた瞬間
分かったこと：子ども・保育者が分か
ったこと

トキメキ、ヒラメキ・イメージ



分かったこと：

- ・トキメキ、ヒラメキ・イメージから分かったこと
- ・事例を通して分かったこと

◇討議の中で分かったこと

- ・トキメキは子どもの意欲や興味や関心につながっていることが分かった。
- ・1歳児の事例研究では、Aグループは、子どものトキメキが持続していく流れを読み取り、Bグループは、トキメキがたくさん見つかったことや1歳児は子どものトキメキを大切にしてい

くことを読み取った。2グループでの討議では見取り方が違っており、様々な見取りから援助を考えることが大切である。

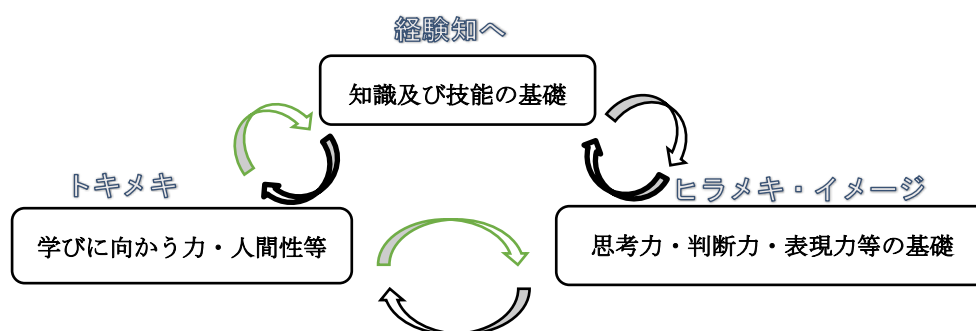
- ・ヒラメキ・イメージからさらに楽しめる工夫はどの学年でも大切である。

○参加者の感想より

- ・4歳の学び、5歳の学びと年齢に応じて感じていること、楽しんでいることが違うことも分かり、互いにとって大切な経験になっていると思った。
- ・5歳の踊りが他学年にも広がっていて、保育者が環境を工夫したことがよかったと感じた。
- ・クラスの子どもたちがやりたいことを見つけられて遊んでいることがすごいと感じた。子ども言葉や姿を見逃さず、環境を整えるからこそ今の姿につながっていると勉強になった。
- ・環境を変えると姿が変わりどう変えることがよいのか保育者も試行錯誤することが大切だ。
- ・子どものやりたいことを今すぐ実現できるようにすることが主体性につながると感じた。
- ・特別な場面でなくても写真を撮っておくことが大切だ。文章より写真が分かりやすい。
- ・写真で子どもの姿を振り返ったり、子ども同士の関係性や興味などを知ったりすることができたのでよかった。
- ・選んだ写真が素敵でした。「ダンゴムシ」という身近な生き物が魅力の詰まった生き物だったということに改めて気づいた。
- ・先生が一人ひとりの子どもを理解し、成長や気持ちの変化に寄り添い日々の保育をしているのだと感じた。
- ・“知る努力をする” 苦手だから嫌いだからではなく知らないことを知ろうとすることは本当に大切なことだと思った。

〈成果と課題〉

- ・トキメキやヒラメキ・イメージを生む環境構成や保育者の援助が大切だということを感じ、保育に生かすことができた。
- ・少人数での研修や回数を重ねることで、活発に意見が出し合え、深まりがみられた。
- ・討議の柱を意識し、参加するようになった。
- ・ファシリテーターを経験したことで、参加者の場合も発言する姿へとつながった。
- ・保育室の壁の活用という視点は、幼児担当ではあまりなかったことが分かった。
- ・ヒラメキやイメージからさらに3つの資質能力を意識し、保育につなげていきたい。



6. 学習会の取り組み

0歳児

【学年のテーマ】 一人ひとりの育ちを大切に～笑顔あふれる環境づくり～

- 一人ひとりの生活リズムを大切にしながら生理的欲求（食事、排泄、睡眠など）を満たし、安全で清潔な環境の中で健康に過ごす。
- 保育者との安定した関係の中で甘えや欲求を十分に受けとめ、信頼関係を築きながら、情緒の安定を図る。

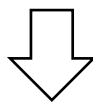
一人ひとりの育ちを大切にしながら安心安全に過ごせる環境とは？ということを考えながら、担任間で日々の保育の話し合いを行い、また学習会でクラスにかかわりのある保育者とも話し合い、意見の交流をしてきた。その話し合いの中で、園のテーマでもある「未来につながれ！！わかばのポケット～夢があふれるこども園～」をもとに、子どもや保育者のポケットに何を入れていきたいか、ポケットの中身を充実させるためにはどうしたらよいかを出し合った。

実践として・・・

- *体操
- *ふれあい遊び
- *手作りおもちゃ
- *歌、手遊び
- *戸外遊び
- *散歩
- など

○手作りおもちゃ/段ボールトンネル○

既成のトンネルでは閉塞的な空間に怖さを感じるのか、興味はあるが遊べない姿があった。そこで、センサーバックや綿、アルミホイルなどで色々な感触を楽しんだり、カラーセロハンを窓のように貼ってのぞいて遊んだりもできる段ボールトンネルを用意した。子どもたちの前に段ボールトンネルを置くとすぐに興味を示し、トンネルを怖がっていた子どもも感触あそびなどをやってみようとする中で、くぐって遊ぶことを楽しめるようになった。



ポケットに入ったもの

子どものポケット

- ・安定した情緒
- ・安心
- ・わくわくやってみたい
- 気もち
- ・生活する力

保育者のポケット

- わくわく楽しくなる環境をつくろう
- ・保育者が落ち着いて子どもとかかわる
- ・発達に応じた玩具の準備
(手先を使う遊び、身体を使う遊び、
絵本、ふれあい遊び、手遊び など)
- ・食事、睡眠、排泄は一人ひとりに合わせて行う

安心できる環境の中で…



離乳食、給食、おやつが自分で食べられるようになった

布団でぐっすり眠れるよ。



安全な環境の中で…



壁掛けボード、牛乳パックの囲い、段ボールトンネルなど手作り玩具で遊んだよ！



♪ 1, 2, 3…



体操やふれあい遊びを楽しんだよ！

♪ スリル満点～
ジェットコースター

- 〈成果〉・保育者が子どもたちの不安な気持ちを受けとめ、抱っこや言葉かけをし、安心できる環境があるからこそ、子どもたちのやってみようという気持ちにつながっていることが分かった。
- ・一緒に保育を進めていく保育者同士で、子どもの様子や保育について話し合いや相談ができ、保育に生かすことができた。
- 〈課題〉・午睡の時間に学習会を予定していたが、子どもたちの睡眠が安定しないとなかなか時間が取れなかったため時間帯は検討が必要だ。

1 歳児

学年のテーマ

楽しい うれしい 大好きがいっぱい～安心できる環境づくり～

<学年のテーマを決めるにあたって>

年度当初、毎日の遊びを通して子どもたちに“どんな気持ちを味わわせたいか”“1 歳児の主体性って何か”を学年で話し合った。“楽しい”“やってみたい”“夢中になる”ことから子どもたちが繰り返して遊んでいくことで“好きな遊び”になっていき、そのためには“安心できる環境”が必要であると考えた。そこで『子どもにとって“安心できる環境”とは?』について研究する。

<担当制って?>

初めて乳児の担任をする保育者が多かったため、最初の学習会で園長より担当制をしていくにおいて大切なことは、担当制を通して特定の保育者との愛着を形成し、信頼関係を築くことであるということを引き、改めて確認し合うことができた。

<月 1 回の環境の再構成>

毎月、次月のカリキュラムをたてるために前月のカリキュラムをもとに子どもたちの様子について話し合いをした。子どもの実際の姿から予想されることを出し合い、季節に合ったねらいをたてている。その話し合いの中で、保育室と乳児園庭の環境図を作成し、子どもの姿に合わせて環境の再構成をしてきた。

<◆成果と●課題>

- ◆図を作成し、子どもたちの興味がどこに向いているのか書き込むことで改善が必要な空間や玩具は何かを把握することができた。
- ◆毎月の学年会議を行うことで、学年単位で子ども理解をすることができた。合わせて保育室や乳児園庭の環境の見直しをしたことで子どもの興味に沿った遊びや環境にその都度変化させていくことにつながった。そうしたことで、自分で好きな遊びを選んで遊ぶ姿が多く見られるようになってきている。
- 1 歳児は自我の主張をする姿が多くあり、その都度担当保育者が向き合って受容してきたことで子どもたちも安心して生活できるようになってきている。しかしまだ気持ちの切り替えがうまくいかない時もあり、引き続き一人ひとりの姿を受けとめて保育したい。

環境構成図



手作り玩具



<環境構成と保育者の連携>

シャワー時の保育者の連携

クラスごとにシャワーを行っていたが、水遊び後入室してすぐにシャワーができないという課題があった。

- ◆シャワーをする際の流れを両クラスの担任間で連携することで、待つ時間が短くなり課題を解決することができた。

毎日使うランチルームの環境構成

午後のおやつ後に遊んでいるランチルームで、体を動かす遊びも楽しめるように環境を見直した。

- ◆子どもたちが普段楽しんでいる動きを使う遊具を考え、設置したことで室内でも体を動かす遊びを楽しむことができた。

手作り玩具の作成

子どもたちの興味を見取り、遊びが広がるような玩具のアイデアを出し合い作成に取り組んだ。

ポケットに

入ったもの

保育者

- ・安心できる環境をつくる力
- ・子どもの「やってみたい」をみつける力

子ども

- ・「やってみよう」と思う力
- ・色々なものに触れてみようとする力
- ・安心感、自尊心



<夏の遊びって？>

思いつく夏の遊びを出し合いKJ法で整理した。
その遊びでどのようなことを感じて欲しいか、どんな経験をして欲しいかを考えた。(水の感触や冷たさ、気持ちよさなど)
その中から、色水氷と片栗粉遊びの教材研究をしてみることにした。



<教材研究(色水氷、片栗粉遊び)>

色水氷では、色を出す素材(絵の具、クレヨン紙、粉絵の具、食紅)と紙の種類(画用紙、和紙、模造紙)を変えて試してみた。

素材によって色の出方が違うことや、きれいに色がのる紙があることが分かった。

実際にやってみて氷の冷たさ、溶けていく感覚を感じられる遊びになるようにしたいと思った。

片栗粉遊びでは、経験のない保育者もいたので、子どもの気持ちになって楽しめた。握ると固くなり、開くとトローンと垂れていく様子がおもしろかった。

粉の感触、水を入れてからのとろみを子どもたちも楽しむだろうとの予想をした。



<夏の遊びの実際の子どもたちの様子>

乳児園庭のテラスを夏の遊びのコーナーにし、水遊びや感触遊びを楽しめるようにした。

(片栗粉遊び、野菜スタンプ、シャワー、霧吹き、シャボン玉、ウォーターベッドなど)

◆水を怖がったり初めて触れるものに警戒する様子を見せたりする子どももいたが、保育者や友だちが遊んでいる様子を見ながら少しずつ遊んでいくうちに自ら触れて感触を確かめようとしていたり、全身がビショビショになるまで楽しんだりする姿があった。



マインドマップ



<夏の遊び振り返り>

実際にした遊びと子どもの反応、保育者の予想とのギャップをマインドマップで整理した。保育者が予想していた子どもの姿とは違う反応を見せることの方が多かったことに驚いた。

・片栗粉遊びは保育者が楽しいと思ったとろみより、粉そのものや水を入れて混ぜることを楽しんでいた子どもが多かった。

・シャボン玉はスティックを振って自分で出すことを楽しんでいる子どもが多かった。

◆子どもの姿をよく見取り、子ども理解をより深めることで、予想と実際の姿のギャップを縮めることができると分かり、これを踏まえてこれからはじまる運動遊びにも生かしていこうと話し合った。

●子どもが楽しんでいる遊び、終息した遊びを見取り、その都度必要な物、片づける物、再構成が必要な物と区別していく必要があった。

2歳児

学年のテーマ

『好きな遊びみ一つけた！！ ～やってみよう！失敗は成功のもと！～』

今年度は、「一人ひとりに好きな遊びを見つけてほしい」という目標を立てた。

そのために、まずは「好きな遊びって何？」と考えることにした。

- ・繰り返し遊んでいたら、OK？
- ・そこに居たら、OK？
- ・自分で遊びを見つけていたら、OK？

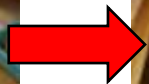
見直していくうちに

保育者の思いと今の子どもたちの現状にずれがあることに気づいた

そこで、子どもたち一人ひとりの遊びや様子を丁寧に見取り、今何に興味をもっているのかを考えながら様々な環境や玩具を整えることにした。また、保育者は「失敗は成功のもと！」を合言葉に、何でもやってみよう！と取り組むことにした。

《保育室》

- ・電車コーナーを魅力的に



様々な素材を準備



みんな大好きな電車の玩具。線路をつなげて電車を走らせることを楽しんでいたので、「もっと遊びが広がってほしいな…」という思いから、ペットボトルや段ボール、空き箱、積み木など様々な素材・玩具を準備してみることにした。

(成果)

- ★素材を組み合わせると坂道やトンネルなどをつくり、遊びが広がるきっかけになった。
- ★「何してるの?」「おもしろそう!」と子どもたち同士のやりとりやかかわりが増えた。

《2歳児専用廊下の活用》

- ①虫をじっくり見られるスペースに

何か遊びをつくれなかな?



あっ！動いた！

生き物コーナーを準備



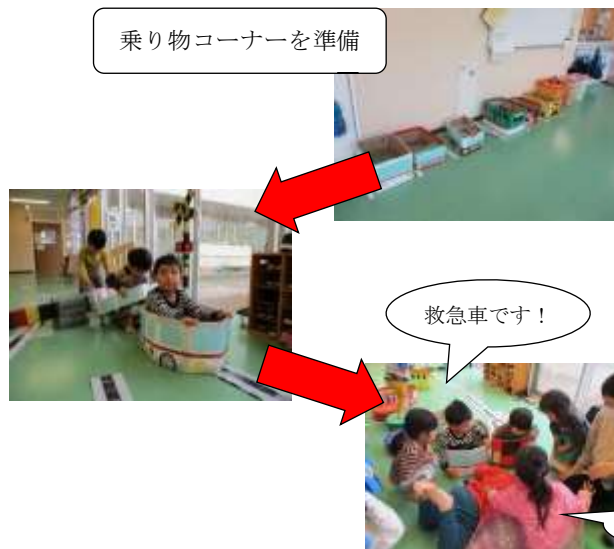
そっと…。(触れるかな?)

生き物を探したり捕まえたりすることを楽しみ始めた子どもたち。生き物をじっくり見られるスペースをつくりたいと考えたが、部屋の中では十分な場所を確保することが難しい。そこで、廊下に生き物コーナーを準備してみることにした。

(成果)

- ★子どもたちの目につきやすい場所にすることで、生き物に興味・関心をもつきっかけになった。
- ★子どもたちが好きな時間に見たり、触ったりすることを楽しめる場所となった。

②乗り物ゴーゴーエリア



『はたらくくるま』や絵本『せんろはつづく』のシリーズが好きな子どもたち。車や電車、そして遊びの段階をみながら踏切や自分たちで道をつなげていけるように遊びを準備してみることにした。

(成果)

- ★一人で乗ることを十分に楽しんだのち、絵本をきっかけにイメージをもちながら遊ぶ子どもの姿が見られた。
- ★怪我人が現れると、救急隊や消防車が出動し「大丈夫〜?」と、助ける遊びに発展するなど、子どもたちから発信する遊びへと変化した。

《学習会》

『いいところ、み〜つけた!!』



遊びの環境を整えたことで、それぞれ好きな遊びが見つかり落ち着き始めた2学期、少しずつ来年度が見え始め、「3歳までに〇〇できるようにしないと…」と保育者に焦りが出てきた。そこで、今の子どもたちのよさを伸ばしていけるよう、それぞれの子どもの長所を出し合う機会を設けた。

(成果)

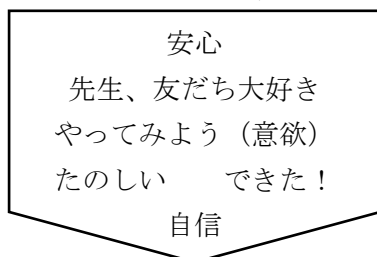
- ★一人ひとりのよさを改めて考えるきっかけになった。
- ★他の保育者の意見をきくことで、新たな一面を知れた。
- ★子どもたちの成長を確認することができた。

《一年間の取り組み》

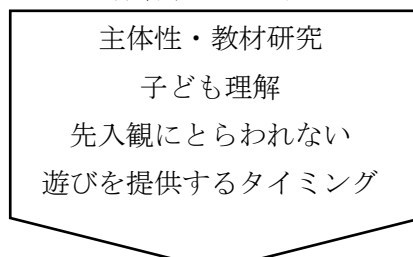
- ・カリキュラムの作成、見直し (PDCA サイクル)
- ・学期ごとの園内研修
- ・園庭の総合遊具に代わる運動遊具の環境づくり
- ・子どもの姿の見取るための写真記録など

ポケットに入ったもの

子どものポケット



保育者のポケット

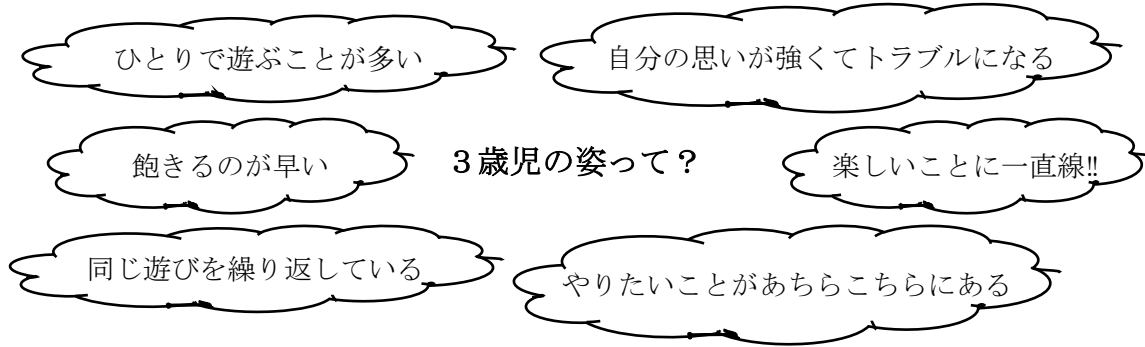


【課題】

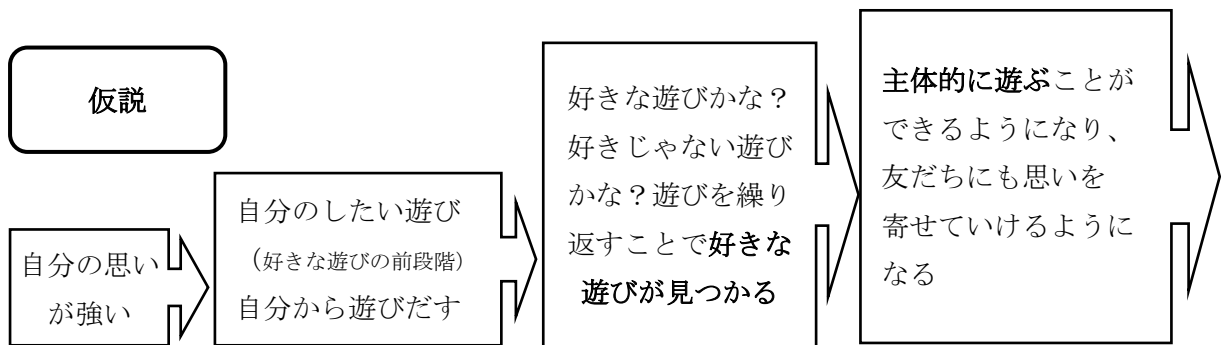
- *各クラスの子どもの様子をクラス間で共有し合い、好きな遊びをどのように継続していくのか。
- *職員間で共有した子どもの姿を保護者にどのように発信していくか。
- *それぞれ異なる保育観を認め合い、保育を進めていくこと。

3歳児

学年のテーマ 主体的に遊ぶ子どもを育む～環境を通して～



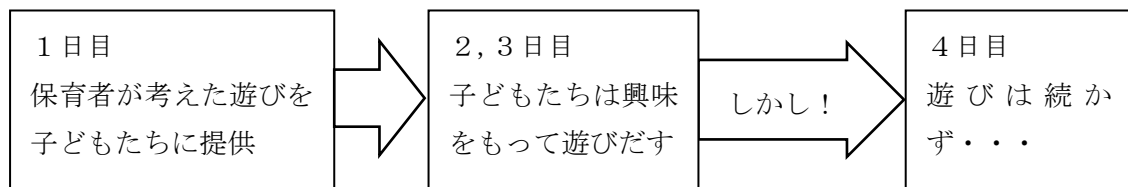
これらの姿から、主体的に遊ぶようになっていく姿の仮説を立てる



事例①

保育者が子どもたちに「大好きなお店屋さんごっこをしよう」と声をかけ店屋ごっこが始まる。

- 1日目・店屋役を楽しむ子どもたちで客役は保育者がする。
- 2日目・1日目より楽しむ子どもは少なくなるが店屋役を楽しむ。
- 3日目・保育者が「〇〇くださ～い」の掛け声で子どもたちが店屋役をしてくれる。
- 4日目・保育者の誘いに数名店屋に来るが違う遊びに誘われ終息する。



考察

保育者の保育経験から子どもたちが喜びそうなことを保育者発信で提供したところ、その日は楽しんで遊んでいたが、友だちとのやり取りまでは楽しまず、子どもたちの遊びに広がりはなかった。子どもたちからの発信、発見、興味が無いと遊びが続かず、子どもが「やりたい!」と思った時に実現できるようにすることが大切だと考える。

事例②

ままごとで遊んでいるとネコやイヌになりきって楽しんでいた。もっと楽しめるよう動物のお面をつくれるよう用意し子どもと一緒につくった。自分で色を塗り終わると早速かぶりなりきることを楽しんでいた。さらに牛乳パックを繋げ家に見立てていたので保育者が「動物園みたいだね」と言葉をかけると「そうやねん」と動物園ごっこが始まった。「お面作りたい」と参加する子どもが増え、友だちがつくったお面にも興味をもち、「交換しよう」とやりとりが見られ、一緒に楽しんでいた。



お面をかぶって動物になりきることを楽しんでいる。

友だちがつくったお面に興味をもち、「交換しよう」とやりとりをしている。

ままごとで遊んでいた友だちも参加するようになり、世話を楽しむ子どもが増えた。

考察

子どもの楽しんでいる遊びから環境を用意することで遊びが盛り上がった。保育者も仲立ちをしながら遊ぶことで友だちとのかかわりが増え、やりとりを楽しむようになり友だちとの輪が広がることで遊びも広がっていったと感じられる。

<気づいたこと>

好きな遊びが見つかる、主体的に遊ぶ姿が見られるようになった。楽しいことを先生や友だちに知らせたい、共有したいという思いも芽生えている。経験したことや友だちの姿からも刺激を受け、保育者の援助を支えに遊びに生かそうとするようになってきている。だからこそ、子どもの思いややりたい気持ちに沿った環境を準備することや、子どもの思いが続いているうちに環境を整えるタイミングとスピードが大切だと分かった。

主体的に遊ぶ子ども

ポケットに入ったもの

子どものポケット

- ☆こども園楽しい
- ☆友だち大好き先生大好き
- ☆もっともっとやりたい
- ☆がんばってみよう
- ☆できるようになった
- ☆自分でもしてみよう
- ☆不思議！なんで？疑問がいっぱい
- ☆友だちと一緒に遊ぶのが楽しい

保育者のポケット

- 子どもを見取る力
- 子どもの思いに沿った援助
- 子どもの姿や遊びに見通しがもてるスキル
- すぐに遊びにつなげられるスキル
- 教材研究を通して遊びの引き出しを増やす
- 保育の反省を生かす
- 保育を理論的に捉え発信していくスキル

もっと高めて
いきたい

4 歳児

学年のテーマ 『ほっこり あったか 仲間づくり』

好きな遊びが見つけにくく戸惑っていたり、遊びが続かずに他のことに興味移ってしまったりする子どもの姿や、自己主張の強い子ども、自分の思いを表出しにくい子どもがいた。子どもたち一人ひとりが好きな遊びを見つけ、十分に好きな遊びを楽しむ中で、自分の思いを伝えたり友だちの思いを受け入れたりする子どもになってほしい。また、いろいろな感情体験を通して、一人ひとりを認め合えるあたたかい集団をつくりたいと願い、学年のテーマを『ほっこり あったか 仲間づくり』とし、まずは環境の工夫や見直しから始めることにした。

環境の再構成

Before



どこに何が
あるか分か
りにくい…

After



素材ごと
に分ける

色ごとに
分ける



◎教材庫の環境を整え、自由に使えるようにしたことで色々な素材に興味をもち、選んで使ったりつくって遊んだりすることを楽しめるようになった。

ポートフォリオ

カリキュラムの打ち合わせをする時に写真を持ち寄り、環境構成や友だちとのかかわりを振り返ることで、環境の再構成を行ってきた。

どんな流れ方
するかな？

私も一緒に
やってみよう！



水の気持ちよさを
友だちと共感しな
がら遊んでいるな

水に興味をもち
始めたから桶を
用意してみよう

◎写真を活用して遊びを振り返ることで、遊びのきっかけや流れを再確認したり、環境構成や保育者の援助について考えたりし、自分の保育を振り返る時間になった。

◎遊びや経験を次にどう生かしていきたいか、先の保育を考える材料になった。

◎遊びの写真を見ることで、互いの学級の室内遊びの様子が分かりやすかった。

◎写真を見返すことによって、一人ひとりの遊びから友だちとつながり、かかわりを楽しめるようになったことが分かった。

エピソードトーク

環境だけではなく、保育者の援助にも注力したいという思いから、保育の中で保育者自身が悩んだことなどを出し合い、話し合う機会も大切にしました。

エピソード①

A児はB児と一緒に鬼ごっこをして遊びたい。でもB児は虫探しがしたい。A児は「一緒に遊んでくれない」と泣き出した…どう援助する？

困ったり悩んだりした時は、クラスの子どもたちに投げかけてみよう！

「鬼ごっこをしたい他の友だちと一緒に遊んだらいい」などの意見が出た。

友だちの言葉には不思議なパワーがある。どんどん引き出していこう。

保育者から注意するのではなく、本児と友だちをつなぐ援助を！

自分の気持ちを言葉で相手に伝えること、相手の思いをきくことを大切に。

子ども同士の思いが伝わる体験を積み重ねていく援助をしよう。

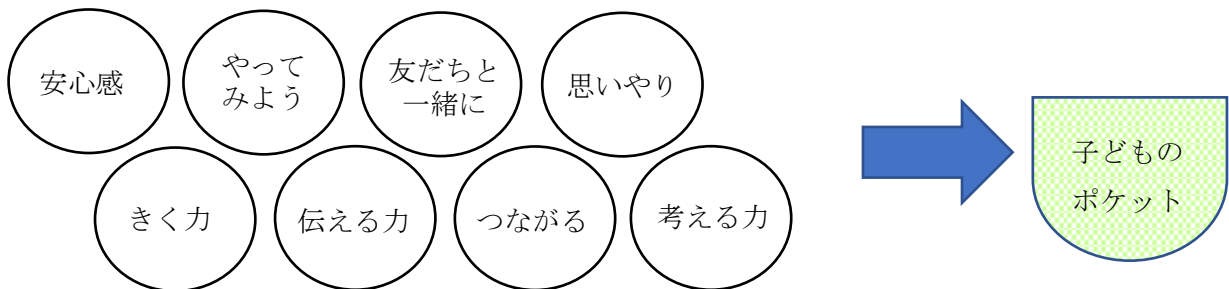
エピソード②

C児は、友だちに興味が出てきたことが嬉しい。でも手が出てしまう。相手の反応をおもしろがっている様子…どうしたらいい？

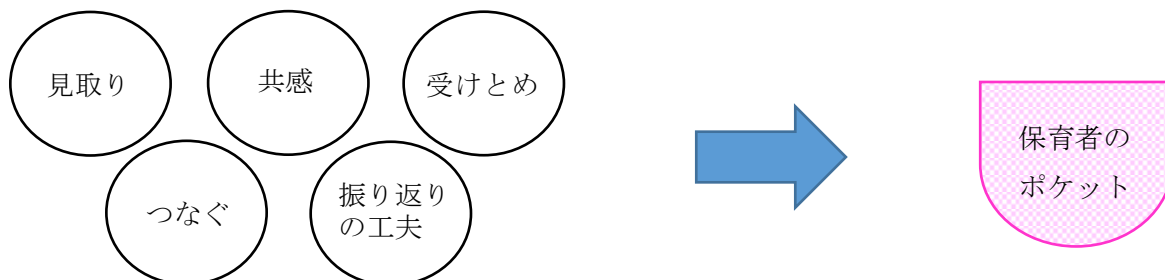
- ◎保育者間で意見を出し合うことで様々な考えや保育観に触れることができ、視野が広がった。
- ◎保育者の援助についての悩みを共有し、交流する中で様々な角度からの見立てや手立てが考えられるようになった。
- ◎子どもの発達段階や一人ひとりが抱える課題について知り、学年全体で子どもたちを支援していこうという気持ちが深まった。

ポケットに入ったもの

子どものポケット



保育者のポケット



今年度の研究を通して「こんな子どもに育ててほしい」と、具体的な姿をめざして保育を進めてきた。保育者同士が子どもの姿や遊びについて話し合うことで、考え方や視野が広がり、同僚性につながっている。今年度の成果や課題を受けとめ、次年度の研究に生かしていきたい。

5歳児

学年のテーマ

大人も子どももドキドキワクワク♡夢中になれる環境構成や保育者の援助

子どもとともに保育者も楽しむことを大切にしてきた。今まで経験がなかった遊びにも、保育者自身が挑戦し、子どもたちと一緒に楽しみ、周りの大人にも子どもたちが楽しんでいることや成長を共感してもらいたいという思いで、この学年のテーマに取り組むことになった。

【教材研究】

☆泡遊び（5月14日）

水や石鹼の量の違いで泡がふわふわになったりキメ細かくなったり…性質が変わる！



色々な容器があればスイーツづくりができる！
ごっこ遊びも楽しめそう♪



☆桶を使った遊び（6月1日）

不安定で壊れやすい。
微妙な調節が必要！

1人でつくるのは難しい！



高さがあると勢いがついておもしろい！

砂場とつなげるとあそびが広がりそう!!

可愛い木の実があれば、スイーツのトッピングも楽しめそう！

☆その他、秋の自然物など



子どもたちの思いは??

どうすれば子どもたちのイメージが実現できるかな？



- ・ 今日の子どもの姿を保育者同士が振り返ることで、明日からの保育につながってきた。

【遊びが広がる振り返りの仕方】


- ・ 保育者同士が振り返りの見せ合いをした。よかったところや次につながることを保育者同士で語り合い、実践に繋げた。他の保育者の振り返りを見ることで自分自身の学びとなった。

【子ども・保育者・保護者もドキドキワクワクな環境構成の取り組み】

- ・ 園全体、家庭で子どもを見守っているということを可視化。園や家庭での素敵なエピソードをカード（葉っぱの形）に記入し、一つの大きな〈ほっこりの木〉を作成している。
- ・ 子どもたちの生活の様子をイラストで伝える。
- ・ エピソード写真集を作成し、閲覧できるようにする。

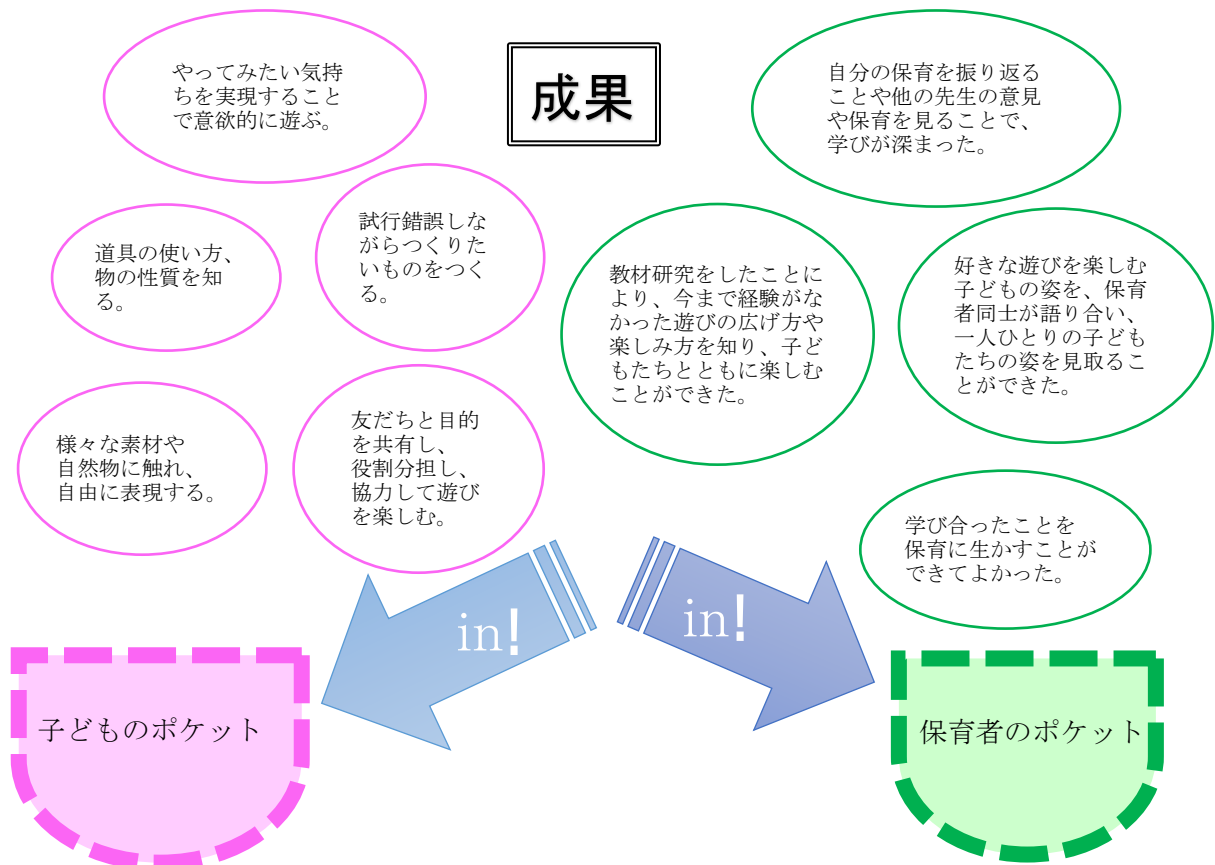
【エピソードから読み解く保育者の援助について】

☆ドキドキわくわくする遊び（しのびドッチしよう！）

エピソード	保育者の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・ A児はコロナ禍での家庭保育や、体調不良などで欠席することが多く、遊びに入りにくそうな姿や友だちの遊びを見ていることが多かった ・ A児が好きなボール遊びを少人数で楽しんでいた。次第にその遊びを「しのびドッチ」と呼び始めた。テレビ番組をイメージして、自分たちでルールを決めて遊ぶようになった。 ・ その中で必要な道具づくりをしたことで多くの子どもたちが興味をもち始め、遊びが広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが興味をもっている遊びを探り、日々の振り返りの中で遊びを紹介する。 ・ 振り返りの中でしのびドッチの楽しさを知らせ、遊びの内容を共有した。 ・ ルールの共有、必要な道具づくりについて出し合う場を設定した。

- ・ 興味をもった友だちや保育者と遊んだことで多くの子どもたちへ遊びが広がる。
- ・ 「しのびドッチ」の遊びを友だちと一緒に楽しんだことで他の遊びや活動など、今まで自信がなかったことにも意欲をもって取り組む姿が見られるようになった。

研究をしてみてもう学んだこと…



各学年の取り組み報告を受け、他学年の保育者から寄せられた感想 ～一部抜粋～

<p>0歳児・安心できるからこそ、色々なものに興味をもっていく</p> <ul style="list-style-type: none">・スキンシップや受けとめ、一人ひとりの為の連携が大切・睡眠、食事、遊びの生活リズムを大切にしている・室内だけでなく、戸外の環境からの刺激も大切・園での経験が全て初めて！様子を見守り、安心できる場所にする事の大切さを感じた・手作り玩具は、子どもが触れるものなので扱いやすい形や大きさなど1つ1つに気配りが大切だと勉強になった
<p>1歳児・担当制でより一人ひとりの園児との信頼関係の強さに結びついていると思った</p> <ul style="list-style-type: none">・信頼関係があることで行動や遊びの幅が広がってきている・色々な研修の仕方を取り入れていた（マインドマップ、KJ法）・学年の保育者同士連携ができていて教材研究したことや環境づくりなど保育に生かされている・環境づくりを大切に保育されていたことがよく分かった・予想される姿と本来の姿のギャップを常にひろって保育をしている
<p>2歳児・遊びの場を保育室だけでなく廊下などを利用しているのがよかった</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの“やりたい”と思うことを見取りすぐに準備することで遊びが広がっている・経験してきたことに保育者のアイデアも入り遊びが充実している・見たい時にいつでも見れる環境が素敵・子どもたちの“いいところ”を共有して温かい保育をしている・“できる、できない（成功か失敗か）”ではなく、どのようにしたらいいかを考えることが大切だと思った
<p>3歳児・子どもの思いや、やりたいことにすぐ応えて環境をつくっていくことが主体的に遊ぶ姿につながっていた</p> <ul style="list-style-type: none">・3歳児だからこそそのタイミングとスピード感、確かに！と思った・やりたい時が遊びの始まるタイミング・すぐ実現することで興味もより深まっている・今までの経験から身につけているルールを自然と使えるようになっている・子どもの“今”に対応する力や子どもの気づきやつぶやきに応える柔軟性が保育者には必要だと思った
<p>4歳児・子どもの意見をきいたり、子ども同士を繋いだりすることで4歳児としての仲間づくりが広がった</p> <ul style="list-style-type: none">・写真での遊びの交流を今後してみたい・保育者が困っていることを話し合うことが子ども理解にもつながると思った・エピソードトークを毎月することで色々な意見をきけて視野が広がりそうだ・ポートフォリオは保育の振り返りにもなると思った・子ども同士のトラブルをクラスで話し合い、子ども同士で解決することでかかわりが広がっていた
<p>5歳児・教材研究をして素材を用意することで、子どもたちの遊びが生まれることが分かった</p> <ul style="list-style-type: none">・先生が楽しく教材研究したことが、子どもたちにも伝わっていると思った・互いの振り返りを見せ合うことで気づくこともあると思う・教材研究が、子どもたちへの言葉かけの方法やタイミングの工夫、遊びの継続につながっている・子どもが自分で考えて遊べる環境構成をしている・さりげない援助をしていきたい・保育者の遊びスキルも必要だと分かった

各学年の取り組み発表後の1分間で感じたことを付箋に記入し、感想や意見の交流とした。



7. 今年度の成果と課題について

<成果>

- 研究に取り組むことで、子どもの学びや育ちに気づいたり、他の保育者の保育観を知ったりするなど学ぶ機会になることを確認できた。
- 各学年の学習会では、保育の質の向上をめざし課題に沿った計画を立て研修を進めることができた。日々の保育を通して互いの思いや考えを知ること、子どもの見取りを共有すること、一緒に考えアイデアを出し合う中で同僚性が高められることが分かった。
- 園内研究会では、各学年の子どもの姿を通して発達に応じた遊び、保育者の援助や遊びの環境の大切さを学ぶことができた。保育指導案の作成にいたる検討、グループワークの中で子どもの実態を共有し、討議の柱に沿った話し合いを進めることで明日の保育へつなぐことができた。事例研究会でも、他の保育者の実践から学ぼうとする意欲や、一緒に考えることの楽しさを感じながら研修に参加することができた。
- PDCA サイクルを意識した月のカリキュラム作成の定着、マインドマップの作成、写真での振り返り、学年の保育者が意見を出し合うことで、環境の再構成や教材の工夫に生かされ、遊びの充実につながってきた。
- 園内研究会で学んだことをまとめたポートフォリオを作成し発信することで、保育者だけでなく、保護者にも他の学年の取り組みや保育で大切にしていることを共有する機会となった。各学年やクラスのポートフォリオには、今楽しんでいる取り組みの中での育ちや学びを保護者に実感してもらえる機会になった。

<課題>

- 保育者の専門性を高め保育の質の向上に向けて、保育者間で協働していきたい。
- 安全で安心な園づくりをめざして、職員間、保護者との連携を深めていきたい。
- 保育者が人権意識を高め、かかわり合う子ども、保護者とともに多様性を認め合える環境を整えていきたい。
- 子どもの姿からどのような資質・能力が育まれているのかを分析し、子どもの学び、育ちを支える保育者の援助や環境を整えていきたい。
- 研究での学び（経験知）を可視化し、共有していく方法を探していきたい。
- 今年度の研究で保育者のポケットに詰めたことを次年度に発揮していきたい。また、子どものポケットに入ったことを次の成長へつなげていきたい。



令和3・4年度 幼児教育研究

未来につながれ！わかばのポケット
～夢があふれるこども園～
＜ 1年次 研究報告 ＞

令和4年3月 発行 (R3-206)

【発行】八尾市
八尾市教育委員会
〒581-0003 八尾市本町一丁目1-1
【TEL】072-991-3881 (代表)
